

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 10 月 1 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (10/1 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 1.9 m ³ /h	35.1	105.2 kPa abs	A系： 0.03 vol%
		給水系：約 2.8 m ³ /h			B系： 0.03 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 5.1 m ³ /h	46.2	8.96 kPa g	A系： 0.05 vol%
		給水系：約 1.7 m ³ /h			B系： 0.06 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 4.6 m ³ /h	47.7	0.19 kPa g	A系： 0.22 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.20 vol%

* 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

・10/1 9:22 常用の窒素供給装置(窒素ガス分離装置B)については、累積運転時間が点検目安時間の 6000 時間を越えたことから、本格点検手入工事を実施するため停止。なお、本装置の点検期間中は、窒素供給装置(窒素ガス分離装置A)および仮設の窒素ガス分離装置*による並列運転を実施。

*ろ過水タンクバブリング用窒素ガス分離装置

【1号機】・9/29 10:13 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 2.6m³/hから約 3.0 m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 1.9m³/hから約 2.0m³/hに調整。

・10/1 原子炉格納容器ガス管理システムのチャコールフィルタ・粒子状フィルタのサンプリングを実施。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (10/1 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	29.5
2号機	循環冷却システム	運転中	28.7
3号機	循環冷却システム	運転中	27.0
4号機	循環冷却システム	運転中	34

* 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘドランジンの注入を適宜実施。

【1号機】・9/25 9:37 使用済燃料プール代替冷却システム2次系配管のポリエチレン管化等の作業を行うため、同システムを停止(停止時プール水温度:29.0℃)。

9/28 16:50 作業が終了したことから同システムを起動。(同日 18:30 時点のプール水温度:32.5℃)。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
1号機	1号機 タービン建屋	→ 2号機タービン建屋	9/29 14:00 ~ 9/30 9:49 移送実施
2号機	2号機 タービン建屋	→ 3号機タービン建屋	9/29 10:05 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [プロセス主建屋]	9/24 9:59 ~ 10/1 9:50 移送実施
4号機	4号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [プロセス主建屋]	9/28 10:20 ~ 移送実施中

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (10/1 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	運転中	停止中*	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転

*フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

・H24/9/25 11:03 第二セシウム吸着装置の配管部等の健全性確認を目的とした検査を実施するにあたり、同装置を停止することから、タービン建屋の水位の状況等を踏まえて、セシウム吸着装置を起動。

12:59 第二セシウム吸着装置を停止。

<5. その他>

・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。

・H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。

・H24/3/6 ～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。

・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

・H24/10/1 1号機原子炉建屋カバー排気フィルタ設備による原子炉建屋上部のダストサンプリングを実施。

以 上